



学内広報

No.1313

2005.5.11
東京大学広報委員会



安田講堂から望む御殿下グラウンド

CONTENTS

特別記事	2	掲示板	5
春の紫綬褒章受章		第78回五月祭について、御殿下記念館の開館時間延長のお知らせ、「教養学部報」第483（5月6日）号の発行、第32回医科研シンポジウムの開催について、東京コロキウム2005開催案内	
部局ニュース	2	事務連絡	8
21世紀COEプログラム『死生学の構築』公開シンポジウム「儒教における生と死」を開催、三鷹国際学生宿舎で新入居留学生への歓迎会行われる、第5回東京大学日本語教育連絡会を開催		人事異動（教員）	
キャンパスニュース	4	広報委員会	15
第57回東京大学・一橋大学対校競漕大会（東商戦）開催される		平成17年度学内広報発行スケジュール	
		淡青評論 本郷キャンパスを歩く	16

春の紫綬褒章受章

大学院理学系研究科教授山形俊男教授が、本年春の紫綬褒章を受章されることになった。

山形俊男 大学院理学系研究科教授

山形教授は永年にわたって、地球流体力学および気候力学の教育と研究に打ちこまれ、大気と海洋に生起する諸現象や大気海洋間の相互作用に伴う気候変動の発生、および、その維持機構の解明に顕著な貢献をされてきました。



まず、非線形惑星波動の研究では、地球の大気海洋や惑星大気中の波動現象を支配している力学的バランスとして、それまでに提唱されていたものとは異なる新たな力学レジームを発見されました。これは「中間地衡流力学」として確立され、実際に、黒潮の大蛇行や木星の大赤斑など、地球や惑星に生起する多くの現象が、この力学レジームにより説明できることを示されました。また、熱帯域の大気海洋結合擾乱に関する理論的および数値的研究では、大気と海洋が互いに影響を及ぼし発達しながら東進する結合擾乱が存在することを初めて明らかにされました。また同時に、その効果を取り入れた数値シミュレーションを世界に先駆けて実行され、現実のエルニーニョ現象と酷似した大気海洋結合擾乱の再現を通じて、その後のエルニーニョ現象に関する研究の飛躍的な発展に繋がる多大な貢献をされました。さらに、数十年規模の気候変動の重要性を提唱されるとともに、アジア・モンスーンの影響を強く受けるインド洋-太平洋域の大気海洋相互作用に関する研究の推進にも尽力され、今日では「インド洋ダイポール現象」として広く知られているインド洋熱帯域に固有の大気海洋結合現象を初めて発見されるなど、傑出した研究業績をあげてこられました。

以上のように、山形教授は複雑な大気海洋系変動の本質に迫る御研究、ならびに、現実の現象の理解を深める独創的な御研究により、国際的にも高い評価を受けてこられました。また、その一方で、地球フロンティア研究システムの設立や地球シミュレータの導入を始め、大型プロジェクトの推進にも多大な貢献をされるとともに、大学教育や大学院教育を通じて、数多くの優秀な人材を育成され、その功績は誠に顕著であります。

(大学院理学系研究科 升本順夫)

大学院人文社会系研究科・文学部

21世紀COEプログラム『死生学の構築』 公開シンポジウム「儒教における生と死」 を開催

大学院人文社会系研究科では、21世紀COEプログラム『死生学の構築』が主催して、4月23日(土)、医学部教育研究棟の鉄門講堂を会場とする公開シンポジウム「儒教における生と死」を開催し、学内外から200名を超える来場者を得た。

本シンポジウムは、発足以来4年度目に入った『死生学の構築』が、文部科学省による中間評価もふまえ、東アジア文化圏の死生観を対象として開いたもので、ハーバード大学イェンチン研究所所長の杜維明(Tu Weiming)教授(本COEプログラム特任教授)を中心に、儒教に見られる生と死についての考え方を総合的に検討した。



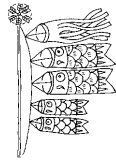
新儒家として国際的な名声のある杜維明氏の基調講演。儒教のビジョンを現代に活かす意義を熱く語った。

シンポジウムでは最初に拠点リーダーの島蘭進教授から趣旨説明を兼ねた挨拶がなされた後、法学政治学研究科の渡辺浩教授の司会により、杜教授が“An ‘Anthropocosmic’ Perspective on Creativity”、人文社会系研究科の小島毅助教授が「死を見据える一儒教と武士道、「行の哲学」の系譜」と題する講演を行い、桜美林大学の坂部恵教授(本学名誉教授)と学習院大学の馬淵昌也教授がそれぞれ30分間のコメントで両氏の講演についての展望を披露した。これらを通じて、儒教の生命観・人間観に見られる発想と西洋的枠組みとの差異や、日本における外国思想受容の特徴と死生観との関わりなどが論じられた。

最後の総合討議では、フロアからも活発な意見・質問が寄せられ、1時間以上にわたって熱を帯びた議論が展開された。なお、杜教授はこのシンポジウムを最後の公務として約1ヶ月の滞在期間を終え、4月25日(月)に米国に帰国した。



総合討論。ピコ・デラ・ミランダら欧州哲学史との比較なども飛び出し、議論は多角的根底的にくりひろげられた。



大学院総合文化研究科・教養学部 三鷹国際学生宿舎で新入居留学生への歓迎会行われる

4月10日（日）、三鷹国際学生宿舎（三鷹市新川6-22-20）の共用棟において、4月に新しく入居した留学生（55名）の歓迎会が、院生会（留学生の生活をサポートするための大学院学生によるチューター組織）の主催により行われた。この時期に入居する留学生には、10月期のように交換留学生（AIKOM生）は含まれていないが、出身国は中国や韓国、タイやブラジルなど実に様々で、留学生の中にはすでに流暢な日本語を話す人も多い。歓迎会には新入留学生のほか、在寮留学生や留学生と彼らをサポートする院生に加え、国際交流に興味を持つ学部学生も多数参加し、満開の桜の季節に総勢150名を超える盛大なパーティーとなった。各テーブルでは焼きそばやお好み焼きに舌鼓を打ちつつ、おしゃべりに花を咲かせた。大学院学生によるダンス、ピアノ、歌に加え、当日は留学生による歌や、即興で作った「三鷹寮の歌」が披露されるなど、盛り上がりは最高潮に達した。

三鷹国際学生宿舎では約600人の学生が生活しており、そのうち約3割を留学生が占めている。居住する大学院学生で組織される院生会と、国際交流に興味を持つ学部学生により、留学生の受け入れやガイダンス、各種イベント等が企画・実行され、また留学生の相談窓口であるチュータールームは毎週開室されている。ドメスティックな空間にグローバルな空気が漂うこの三鷹国際学生宿舎で、留学生のサポートのみならず日本人学生と留学生が共に有意義な宿舎生活を送れるような活動が、今後も引き続き行われていく。



AIKOM生ファジャルさんの指揮により「三鷹寮の歌」が作られた

留学生センター 第5回東京大学日本語教育連絡会を開催

3月8日(火)13時30分から、留学生センター会議室で第5回東京大学日本語教育連絡会が開催され、学内で留学生に対する日本語教育を実施している12の機関(教室)から30名近い関係者が出席した。また、同連絡会の第2部として講演会も行われ、第1部からの参加者も含めて約40名が参加した。

本学では、留学生センターが全学の留学生を対象に日本語教育を行っているが、このほか、各部局あるいは専攻ごとに設けられた日本語教室は十余にもものぼる。そのため、相互の情報交換を目的として、留学生センターの呼びかけで平成11年にこの連絡会を開催し、以後も適宜開催している。

第5回目となった今回は、人文社会系・教育学・理学系・工学系・薬学系・新領域創成科学の各研究科、および、工学系研究科の中の社会基盤工学・都市工学・MEM特別コース・システム創成学(共通で日本語教室を設置)の各セクション、生産技術研究所、留学生センターの計12機関(教室)から、それぞれの日本語教育関係者が出席した。

第1部では、新領域創成科学研究科日本語教室から柏キャンパスにおける日本語教室の状況についての報告があり、次いで社会基盤工学専攻、工学系研究科(国際交流室)の各日本語教室、および留学生センターから、それぞれの教育内容の一端を紹介する実践報告が行われた。教育内容の紹介にまで踏み込んだ報告は今回初の試みであったが、好評であり、今後とも、留学生の増加とともに日本語教育の必要度がさらに高まることが予想される中、引き続きこうした情報交換・実践報告の機会を設けていくことが確認された。

第2部は、「コミュニケーションに役立つ文法シラバス—母語話者の言語運用データに基づいて—」というテーマで、小林ミナ北海道大学助教授による講演が行われ、日本語教育における文法項目のシラバスデザインの見直しや、文法の効果的な指導方法などに関して、実践に生かすための提言が行われた。講演後の質疑応答では参加者から活発に質問が相次ぎ、盛会のうちに終了した。

学生部 第57回東京大学・一橋大学対校競漕大会 (東商戦) 開催される

5月1日(日)、一橋大学端艇部と東京大学漕艇部が競う第57回東商戦が戸田オリンピックコースで行われた。結果は東大の惜敗。昨年の勝利を再現することは叶わなかった。

東大漕艇部は、昨年、この東商戦で一橋大に勝利し、その後の全日本選手権、全日本大学選手権で、好成績を残した。去年の成績を越えるため、今年の漕艇部は、レースのない冬場、身体をさらに鍛え猛練習を行っていた。

当日はやや雲は多いものの、初夏を思わせる天気の中で、まず午前中はOBレースや高校生・中学生の招待レースが行われ、現役選手の戦う対校戦に向け、徐々にボートコースの周りに熱気が集まり始めた。午後は女子シングルスカル(一人乗り)を皮切りに、女子2レース、男子4レースが行われた。2000mボートを漕ぎ、その速さを競う。単純な競技ではあるが、抜きつ抜かれつするレース展開から目を離すことはできない。その中でも、ボート競技の花形である対校エイト(八人乗り)のレースは、一橋大がスタートで前に出、それを東大が追う展開となった。東大は一橋大を抜き去ることが出来ず、涙を飲む結果となった。

漕艇部は、10月の全日本大学選手権で優勝することを目標としている。東商戦での敗北からいかに立ち直り、強い東大漕艇部をいかに作っていくか。これからの漕艇部の挑戦に期待したい。



対校エイト(八人乗り) 東大クルー

学生部 第78回五月祭について

お知らせ

本年度の五月祭の開催期日は、五月祭常任委員会と学生生活委員会・学生担当WGとの協議により下記のとおり決定されるとともに、4月25日（月）の科長会議において、5月27日（金）午後の学部の授業は休止となることについて了承を得ましたので、お知らせします。

なお、例年、五月祭期間中は多数の入場者が予想されます。学生部においては、警備体制を整え事故防止等に当たりますが、施設・設備の管理、盗難・失火等の防止及び危険な場所への立入禁止措置等について、万全を期して当たっていただきますとともに、当日に備え、不要物品等の整理及び、防火・防災に努めていただきますようお願いいたします。

また、五月祭期間中の本郷構内における車両入構規制については、担当部局の了承を得ましたので、その実施を五月祭常任委員会へ委ね、構内安全確保のために構内の交通規制を実施します。屋外企画数も多いため、貴部局関係者の車両入構は差し控えていただきますとともに、特に、納入業者及び工事関係者等への周知徹底をお願いいたしますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

五月祭期間：

- 5月27日（金）午後 学内公開
- 5月28日（土）全日 一般公開
- 5月29日（日）全日 一般公開

入構規制期間：

5月27日（金）12:00～5月29日（日）23:00

入構規制するゲート・門：

- 薬学部横ゲート
- 弥生門
- 二食ゲート

学生部 御殿下記念館の開館時間延長のお知らせ

お知らせ

学生・教職員の皆様にご利用いただいております本郷キャンパスのスポーツ発信地「御殿下記念館」ですが、このたび、サマーキャンペーンとして、夏を迎える5月～7月に下記のとおり開館時間を延長いたします。研究や仕事が忙しくて普段なかなかご利用しにくい方も是非、この機にトレーニングマシンやプール、バスケットやバドミントン等でさわやかな気持ちの良い汗を流してみませんか。

御殿下記念館の詳細は、ホームページ（<http://www.undou-kai.com/goten/>）や御殿下記念館受付および運動会窓口に備え付けのパンフレットをご参照ください。

期 間：5月2日（月）～7月30日（土）

開館時間：11:30～21:20（最終入館20:50）

※通常よりも1時間長く開館します。

大学院総合文化研究科・教養学部 「教養学部報」第483(5月6日)号の発行

——教員による、学生のための学内新聞——

お知らせ

「教養学部報」は、年間9回発行です。教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

吉岡大二郎：オルガンを楽しもう

大築 立志：〈学び方〉新シリーズ 身体の学び方

ロバート・キャンベル：

『パンテオン会雑誌』公刊に寄せて（2）

斎藤 兆史：駒場のレストラン・喫茶店案内（改訂・増補版）

<教員紹介>

広域科学専攻 生命環境科学系／関連基礎科学系／広域システム科学系

<後期課程案内>

船曳 建夫：超域文化科学科

専門性とそれを超える視野を

- 増田 一夫：地域文化研究学科
地域から世界の鼓動を聴く
- 後藤 則行：総合社会科学科
自己開発、自己実現の場としての総合社会科学科
- 金子 邦彦：基礎科学科
広く、深く一科学の王道を歩む
- 玉井 哲雄：広域科学科
広域科学のすすめ
- 馬淵 一誠：生命・認知科学科
DNA名・タンパク質機能の解析から人間の認知・意識まで

<本の棚>

- 安西 信一：石井洋二郎著
『美の思索——生きられた時空への旅』
- 菊池 文雄／川合 慧／大築 立志／下井 守／加藤 雄介／松田 良一：『理数系辞典案内』

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

医科学研究所 第32回医科研シンポジウムの開催について

シンポジウム・講演会

医科学研究所では、6月1日(水)に医科研創立記念事業として伝染病研究所から医科学研究所への改組を記念して、毎年、創立記念シンポジウムを開催いたします。

第32回医科学研究所創立記念シンポジウム 「トランスレーショナル・リサーチ」

日 時：6月1日(水) 13:00～17:00

場 所：医科学研究所1号館講堂

参加費：無料

プログラム：

13:00～13:10 開会の辞 山本 雅 所長

<司会> 三木 裕明

13:10～13:50

「VEGFによる血管新生の分子機構とその応用」

澁谷 正史 教授

(医科学研究所腫瘍抑制分野)

13:50～14:30

「がんペプチド・ワクチン療法のトランスレーショナル・リサーチ」

田原 秀晃 教授

(医科学研究所臓器細胞工学分野)

14:30～14:50 休憩

<司会> 北村 俊雄

14:50～15:30

「ゲノム研究からゲノム医療へ」

中村 祐輔 教授

(医科学研究所ゲノムシーケンス解析分野)

15:30～16:10

「がん診療における抗体療法」

上田 龍三 教授

(名古屋市立大学附属病院長、名古屋市立大学大学院医学研究科臨床分子内科学)

16:10～16:50

「がん分子標的治療研究の展開」

鶴尾 隆 教授

(分子細胞生物学研究所細胞増殖研究分野)

16:50～17:00 閉会の辞 清木 元治 (総務系副所長)

(問い合わせ)

医科学研究所総務課庶務係・大学院事務室
TEL：03-5449-5222・2045（大学院事務室）
MAIL：shomu@adm.ims.u-tokyo.ac.jp

AGS推進室

東京コロキウム2005開催案内

シンポジウム・講演会

スイス連邦工科大学（ETH）と共同で、6月9日に本郷キャンパスにおいて下記のとおりコロキウムを開催いたします。コロキウムでは「教育と持続可能性」をテーマに、環境と社会の持続可能性について、教育のビジョンと経験について、スイスと日本の大学、行政、企業など各界からの高名な話題提供者のもとに、活発な議論を展開します。開会の挨拶は小宮山総長、オステルヴァルデルETH学長、講演者として、ノーベル化学賞受賞者である、リヒャルト・エルンストETH教授、野依良治名古屋大学教授も話をされます。多くの皆様に参加されますようご案内いたします。

なお、本学では、スイス連邦工科大学に加えて、マサチューセッツ工科大学（MIT）、及びスウェーデンのチャルマーズ工科大学と共に、環境保全を図りつつ地球規模での持続的発展を求める国際学術協力、AGS（Alliance for Global Sustainability）活動を推進してきました。「東京コロキウム2005」は、そのAGSのメンバー校であるETHが本年創立150周年を迎えることを記念し、また、愛知万博の開催に合わせてスイス政府が展開している対日キャンペーンの一環として企画されている学術イベントです。6月10日（金）には法政大学で、11日（土）には国連大学でも開催が予定されています。併せてご参加ください。

日時：6月9日（木）13:00～18:00

場所：鉄門講堂（医学部教育研究棟14階）

<プログラム概要>

13:00 開会の挨拶

K.Osterwalder（Rector, ETH）

小宮山宏（東京大学総長）

P.D.Pedersen（東京コロキウム2005司会、イースクエア―社長）

13:45 持続可能な将来のための研究と教育の役割

B.Piccard（探検家、科学者）

吉川弘之（産業技術総合研究所（AIST）理事長）

D.Imboden（President, National Research Council, Swiss National Science Foundation）

15:45 休憩

16:15 持続可能な社会への変化における教育の役割

R.Ernst（ノーベル化学賞受賞者、ETH）

野依良治（ノーベル化学賞受賞者、名古屋大学教授、理化学研究所理事長）

17:45 閉会の挨拶

P.D.Pedersen（東京コロキウム2005司会、イースクエア―社長）

<参加登録>

HP（<http://www.wyf.ethz.ch/tc2005>）から、事前登録をお願いいたします。

(問い合わせ)

AGS推進室 浅尾、島崎

Tel：03-5841-7937 Mail：asao@esc.u-tokyo.ac.jp



人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
17.3.31	廣瀬謙造	辞職（名古屋大学大学院医学系研究科教授）	大学院医学系研究科助教授
//	仁木利郎	辞職	//
//	大橋健一	辞職	//
//	伊良皆啓治	辞職（九州大学大学院システム情報科学研究所教授）	//
//	朝比奈昭彦	辞職（独立行政法人国立病院機構相模原病院皮膚科医長）	//
//	岩田 力	辞職	//
//	村上秀之	辞職（独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所超耐熱材料グループ主席研究員）	大学院工学系研究科助教授
//	稻上 毅	辞職	大学院人文社会系研究科教授
//	吉野耕作	辞職	//
//	青柳正規	辞職（独立行政法人国立美術館理事（国立西洋美術館長））	大学院人文社会系研究科附属文化交流研究施設教授
//	岡 隆	辞職	大学院人文社会系研究科助教授
//	加藤雅啓	辞職（独立行政法人国立科学博物館植物研究部長）	大学院理学系研究科教授
//	櫻井博儀	辞職	大学院理学系研究科助教授
//	恒川篤史	辞職（鳥取大学乾燥地研究センター生物生産部門教授）	大学院農学生命科学研究科助教授
//	宮脇長人	辞職	//
//	廣田 功	辞職（新潟大学人文社会・教育科学系教授）	大学院経済学研究科教授
//	松本忠夫	辞職	大学院総合文化研究科教授
//	草光俊雄	辞職	//
//	平野裕一	辞職	大学院教育学研究科助教授
//	眞鍋 敬	辞職	大学院薬学系研究科助教授
//	菅 敏幸	辞職	//
//	薩摩順吉	辞職	大学院数理科学研究科教授
//	高木保興	辞職	大学院新領域創成科学研究科教授
//	比村治彦	辞職（京都工芸繊維大学工芸学部助教授）	大学院新領域創成科学研究科助教授
//	飯田光男	辞職	//
//	堀田武彦	辞職	大学院情報理工学系研究科助教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	波多伸彦	辞職	//
//	尾崎史郎	辞職(文部科学省大臣官房付)	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター教授
//	渡邊すみ子	辞職(医科学研究所寄付研究部門教員(客員教授))	医科学研究所助教授
//	猪口 孝	辞職	東洋文化研究所教授
//	板倉周一郎	辞職(文部科学省研究開発局原子力課核融合開発室長)	生産技術研究所教授
//	谷口伸行	辞職(北海道大学大学院工学研究科教授)	//
//	野地博行	辞職(大阪大学産業科学研究所教授)	生産技術研究所助教授
//	山田邦明	辞職	史料編纂所教授
//	木下豊彦	辞職	物性研究所附属軌道放射物性研究施設助教授
//	下村芳樹	辞職	人工物工学研究センター助教授
//	城所幸弘	辞職(政策研究大学院大学大学院政策研究科助教授)	空間情報科学研究センター助教授
17.4.15	花岡一雄	辞職	大学院医学系研究科教授
17.4.30	浅沼浩之	辞職(名古屋大学大学院工学研究科教授)	先端科学技術研究センター助教授
17.4.1	栗田 廣	平成17年3月31日限り任期満了退職	大学院医学系研究科教授
//	大塚柳太郎	平成17年3月31日限り任期満了退職 (独立行政法人国立環境研究所理事長)	//
//	久保木富房	平成17年3月31日限り任期満了退職	//
//	中原一彦	平成17年3月31日限り任期満了退職 (独立行政法人大学評価・学位授与機構学位審査研究部教授)	//
//	豊岡照彦	平成17年3月31日限り任期満了退職 (東北大学先進医工学研究機構教授)	医学部教授
//	定方正毅	平成17年3月31日限り任期満了退職	大学院工学系研究科教授
//	鈴木和夫	平成17年3月31日限り任期満了退職	大学院農学生命科学研究科教授
//	三浦逸雄	平成17年3月31日限り任期満了退職	大学院教育学研究科教授
//	朱 世杰	平成17年3月31日限り任期満了退職	生産技術研究所助教授
17.5.1	王 劍鋒	平成17年4月30日限り任期満了退職	大学院新領域創成科学研究科助教授
(死 亡)			
	大澤吉博	平成17年3月21日死亡	大学院総合文化研究科教授
(採 用)			
17.3.16	石原 直	大学院工学系研究科教授	
//	大江 博	大学院総合文化研究科教授	在タイ日本国大使館公使
17.4.1	川出良枝	大学院法学政治学研究科教授	

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	高原明生	//	
//	伊藤晃成	医学部助教授	千葉大学大学院薬学研究院助手
//	上田孝行	大学院工学系研究科教授	東京工業大学大学院理工学研究科助教授
//	加藤孝久	//	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
//	西成活裕	大学院工学系研究科助教授	
//	秋元博路	//	鳥取大学工学部助教授
//	松島 潤	//	独立行政法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門物理探査研究グループ研究員
//	阿部英司	//	独立行政法人物質・材料研究機構材料研究所非周期系材料グループ主任研究員
//	中島義和	//	大阪大学大学院医学系研究科助手
//	井上 慎	大学院工学系研究科附属総合研究機構助教授	
//	西林仁昭	//	京都大学大学院工学研究科助手
//	吉川一朗	大学院理学系研究科助教授	独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部宇宙プラズマ研究系助手
//	勝間 進	大学院農学生命科学研究科助教授	京都大学化学研究所附属バイオインフォマティクスセンター研究員(COE)
//	稲山正弘	//	
//	佐藤安信	大学院総合文化研究科教授	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
//	早川眞一郎	//	東北大学大学院法学研究科教授
//	廣瀬友紀	大学院総合文化研究科助教授	電気通信大学電気通信学部助教授
//	西川杉子	//	神戸大学文学部助教授
//	箭内 匡	//	
//	村上郁也	//	
//	KNIGHTON MARY ALICE	教養学部附属教養教育開発機構助教授	大阪大学言語文化部外国人教師
//	SAALER SVEN TORSTEN	//	
//	中金洋子	大学院教育学研究科助教授	
//	能智正博	//	
//	鬼頭秀一	大学院新領域創成科学研究科教授	
//	鈴木 匡	大学院新領域創成科学研究科助教授	横浜国立大学大学院環境情報研究院助教授
//	清水 亮	//	山梨大学大学院医学工学総合研究部講師
//	黄 光偉	//	新潟大学自然科学系助教授
//	中尾彰宏	大学院情報学環助教授	
//	竹内郁雄	大学院情報理工学系研究科教授	電気通信大学電気通信学部教授
//	五島正裕	大学院情報理工学系研究科助教授	京都大学大学院情報学研究科助手
//	市村英彦	大学院公共政策学連携研究部教授	

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	岩本康志	//	一橋大学大学院経済学研究科教授
//	林 良造	//	
//	渡辺泰司	医科学研究所教授	文部科学省大臣官房付
//	永井暁子	社会科学研究所助教授	
//	高宮 真	生産技術研究所助教授	
//	平松一彦	海洋研究所助教授	独立行政法人水産総合研究センター遠洋水産研究所浮魚資源部数理解析研究室長
//	浦川秀敏	海洋研究所附属先端海洋システム研究センター助教授	独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域水環境質研究室主任研究員
//	小野 亮	高温プラズマ研究センター助教授	独立行政法人産業技術総合研究所研究員
//	佐藤正樹	気候システム研究センター助教授	
//	KRAINES,STEVEN BENJAMIN	総括プロジェクト機構助教授	大学院工学系研究科寄付講座教員(客員助教授)
17.4.8	植田和男	大学院経済学研究科教授	
(昇 任)			
17.3.16	泉 聡志	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
17.4.1	渡邊知保	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科助教授
//	矢富 裕	//	//
//	尹 浩信	大学院医学系研究科助教授	医学部講師
//	関根孝司	//	//
//	小佐古敏荘	大学院工学系研究科教授	原子力研究総合センター助教授
//	長崎晋也	//	大学院新領域創成科学研究科助教授
//	高橋浩之	//	人工物工学研究センター助教授
//	山本晃生	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
//	三田吉郎	//	//
//	杉山正和	//	//
//	吉村悦郎	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
//	石田勇治	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
//	尾中 篤	//	//
//	松尾基之	//	//
//	石田 淳	//	社会科学研究所助教授
//	有田 伸	大学院総合文化研究科助教授	大学院総合文化研究科講師
//	岡本拓司	//	//
//	廣田照幸	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科助教授
//	楠原洋之	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
//	武田弘資	//	//
//	岡本 博	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科助教授
//	小嶋徹也	大学院新領域創成科学研究科助教授	大学院理学系研究科助手
//	馬場 章	大学院情報学環教授	大学院情報学環助教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	江崎 浩	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報理工学系研究科助教授
//	井上博之	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授
//	腰原幹雄	生産技術研究所助教授	大学院工学系研究科助手
//	後藤由季子	分子細胞生物学研究所教授	分子細胞生物学研究所助教授
//	安田一郎	海洋研究所教授	大学院理学系研究科助教授
//	奥田洋司	人工物工学研究センター教授	人工物工学研究センター助教授
17.4.16	有岡 学	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科助手
17.5.1	紺谷圏二	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科助手
(配置換)			
17.4.1	原田 昇	大学院工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
//	寺井隆幸	//	大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設教授
//	吉村 忍	//	大学院新領域創成科学研究科教授
//	藤田豊久	//	人工物工学研究センター教授
//	勝村庸介	//	大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設教授
//	岡 芳明	//	//
//	上坂 充	//	//
//	班目春樹	//	原子力研究総合センター教授
//	山地憲治	//	大学院新領域創成科学研究科教授
//	大場善次郎	大学院工学系研究科附属工学教育推進機構教授	大学院工学系研究科教授
//	吉田 眞	//	//
//	香取秀俊	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科附属総合研究機構助教授
//	陳 昱	//	大学院情報学環助教授
//	下山淳一	//	大学院工学系研究科附属総合研究機構助教授
//	松崎浩之	//	原子力研究総合センター助教授
//	安部弘亨	//	//
//	劉 傑	//	大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設助教授
//	出町和之	//	//
//	工藤久明	//	//
//	鈴木晶大	//	//
//	梶 幹男	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授	大学院新領域創成科学研究科教授
//	木畑洋一	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授
//	小寺 彰	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教授	大学院総合文化研究科教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	兵頭俊夫	教養学部附属教養教育開発機構教授	//
//	矢口祐人	大学院総合文化研究科助教授	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター助教授
//	岡山 裕	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター助教授	大学院総合文化研究科助教授
//	小野 靖	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科教授
//	岡本孝司	//	//
//	藤井康正	大学院新領域創成科学研究科助教授	大学院工学系研究科助教授
//	高橋成雄	//	大学院総合文化研究科助教授
//	本郷和人	大学院情報学環助教授	史料編纂所助教授
//	田中久美子	大学院情報理工学系研究科助教授	情報基盤センター助教授
//	丘山 新	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター教授
//	長澤榮治	//	//
//	小川裕充	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター教授	東洋文化研究所教授
//	家氏友子	東洋文化研究所助教授	東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター助教授
//	年吉 洋	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター助教授	大規模集積システム設計教育研究センター助教授
//	沖 大幹	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究センター助教授	生産技術研究所助教授
17.4.16	徳永朋祥	大学院新領域創成科学研究科助教授	大学院工学系研究科助教授
(兼 務 免)			
17.4.1	新井民夫	人工物工学研究センター長	大学院工学系研究科教授
//	岡部篤行	空間情報科学研究センター長	//
(兼 務 命)			
17.4.1	廣川信隆	大学院医学系研究科長 医学部長	大学院医学系研究科教授
//	永井良三	医学部附属病院長	//
//	高橋和久	大学院人文社会系研究科長 文学部長	大学院人文社会系研究科教授
//	岩澤康裕	大学院理学系研究科長 理学部長	大学院理学系研究科教授
//	會田勝美	大学院農学生命科学研究科長 農学部長	大学院農学生命科学研究科教授
//	桂 利行	大学院数理科学研究科長	大学院数理科学研究科教授
//	磯部雅彦	大学院新領域創成科学研究科長	大学院新領域創成科学研究科教授
//	山本 雅	医科学研究所長	医科学研究所教授

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
//	大久保修平	地震研究所長	地震研究所教授
//	小森田秋夫	社会科学研究所長	社会科学研究所教授
//	前田正史	生産技術研究所長	生産技術研究所附属サステイナブル材料国際研究センター教授
//	保立道久	史料編纂所長	史料編纂所教授
//	宮島 篤	分子細胞生物学研究所長	分子細胞生物学研究所教授
//	寺崎 誠	海洋研究所長	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター教授
//	西郷和彦	附属図書館長	大学院新領域創成科学研究科教授
//	高橋 進	総合研究博物館長	大学院法学政治学研究科教授
//	巻出義紘	アイソトープ総合センター長	アイソトープ総合センター教授
//	山本和夫	環境安全研究センター長	環境安全研究センター教授
//	上田完次	人工物工学研究センター長	人工物工学研究センター教授
//	山口五十麿	生物生産工学研究センター長	大学院農学生命科学研究科教授
//	武内和彦	アジア生物資源環境研究センター長	//
//	横井秀俊	国際・産学共同研究センター長	国際・産学共同研究センター教授
//	柴崎亮介	空間情報科学研究センター長	空間情報科学研究センター教授
//	小川雄一	高温プラズマ研究センター長	高温プラズマ研究センター教授
//	加我君孝	医学教育国際協力研究センター長	大学院医学系研究科教授
//	岡部洋一	情報基盤センター長	大学院工学系研究科教授
(命)			
17.4.1	西尾茂文	保健センター事務取扱	理事(副学長)

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

平成17年度学内広報発行スケジュール

これからの学内広報の発行スケジュールは下記のとおりです。

号 数	原稿締切 (原則第1・3水曜日)	発 行 日 (原則第2・4水曜日)	配 付	備 考
1314	5月18日(水)	5月25日(水)	5月31日(火)	
1315	6月1日(水)	6月8日(水)	6月14日(火)	
1316	6月15日(水)	6月22日(水)	6月28日(火)	
1317	7月6日(水)	7月13日(水)	7月20日(水)	
1318	7月20日(水)	7月27日(水)	8月2日(火)	
1319	9月7日(水)	9月14日(水)	9月21日(水)	
1320	9月21日(水)	9月28日(水)	10月4日(火)	
1321	10月5日(水)	10月12日(水)	10月19日(水)	
1322	10月19日(水)	10月26日(水)	11月1日(火)	
1323	11月2日(水)	11月9日(水)	11月15日(火)	
1324	11月16日(水)	11月24日(木)	11月30日(水)	
1325	/	12月中旬発行予定		学生生活実態調査特集号
1326	12月7日(水)	12月14日(水)	12月20日(火)	
1327	1月4日(水)	1月11日(水)	1月17日(火)	
1328	1月18日(水)	1月25日(水)	1月31日(火)	
1329	2月1日(水)	2月8日(水)	2月14日(火)	
1330	2月15日(水)	2月22日(水)	2月28日(火)	
1331	3月1日(水)	3月8日(水)	3月14日(火)	
1332	3月15日(水)	3月22日(水)	3月29日(水)	

「学内広報」に学内情報をお寄せください。

文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えめにしてください）。

写真には、キャプション（説明文）を添えてください。

発行スケジュールは、HP（http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html）にも掲載しています。

原稿送付先

総務部広報課 Mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

TEL：03-3811-3393 内線：22031 FAX：03-3816-3913

本郷キャンパスを歩く

私はふだん、地下鉄の入り口と研究室との往復以外、ほとんどキャンパス内を出歩かない味気ない生活を送っている。食事も途中で買って来たものを研究室で食べるが多いし、講義や会議など、とくに用事がないかぎり他の建物に行くことも少ない。しかし、せっかく「淡青評論」から原稿を頼まれたのだから、この際キャンパス内をふらふら散歩し、あちこち見て回ることにした。

まずは新しい施設ということで、安田講堂脇のコンビニエンス・ストアをのぞいてみた。お昼時だったせいもあるが、たいへんな人のにぎわいである。商売繁盛でたいへん結構だが、中に入るのはちょっとはばかれるほどの込み合いであった。次にコミュニケーションセンターへ。単なる東大グッズ売り場かと思っていたが、なかなか面白いものが置いてある。明治新聞雑誌文庫のコレクションを利用したクリアファイルが秀逸で、二つ三つ買って



帰ることにした。さらに総合研究博物館を探す。このポスターはよく見かけるが、建物はちょっと見つけにくい。ようやくたどり着いて入ってみると、静かで博物館らしいひんやりとした空気。ここは別の時間が流れている。たまたま入ったときは、「Systema naturae～標本は語る」という企画であったが、よく工夫され説明も魅力的であった。

最後にキャンパス内の保育園を探すことにした。東大の施設ではないとのことだが、本郷構内にも保育園があると聞いていたし、園児の姿もときどき見かける。が、今までどこにあるのか、わからなかった。子持ちの身にとって無関心ではいられず、しばらく探してようやく見つけたが、やはり規模

の小ささは否めなかった。これから学内の保育施設の必要は高まる一方であろう。もう一つ二つ、保育施設があってもいいのではないか。

構内の様子も急激に変化している。息抜きに、歩き回ってみることをおすすめしたい。

宇野 重規 (社会科学研究所)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1313 2005年5月11日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO